

d&b ArrayCalc V12 リリースノート

d&b ArrayCalc シミュレーションソフトウェアは、d&b ラインアレイ、コラム、ポイントソースラウドスピーカーとサブウーファースのシミュレーションツールです。このソフトウェアは、音響設計、性能予測、アライメント、リギングと安全係数などに関連する全てのタスクに及ぶ非常に広範囲なツールボックスです。

オペレーティングシステム要件

Windows:	Win10以降 要 Vulkan 対応 要 MS 「Media Feature Pack」
macOS(Intel):	12.0以降 (要 Metal 対応)
macOS(M*):	12.0以降 (要 Metal 対応)

注意:

ArrayCalc V10.16.1以降の Windows バージョンは、64ビットオペレーティングシステム用に作成されています。これは、すべてのユーザーに推奨されるバージョンです。ArrayCalc の32ビットバージョンが必要な場合は、[ソフトウェアアーカイブ](#)からダウンロードできる ArrayCalc V10.14.1を使用してください。

Windows N OS では MS 「Media Feature Pack」を手動でインストールする必要があります。

ArrayCalc V12.0.3以降の Windows 版では、グラフィックバックエンドを OpenGL から Vulkan にアップデートしました。これにより、パフォーマンスの向上、マルチスレッド性能の向上、最新 GPU の効率的な利用が可能になります。ただし、一部の古い Windows デバイスは Vulkan をサポートしていない場合がありますのでご注意ください。その場合、新たなハードウェアへのアップグレードが必要になる場合があります。ArrayCalc の OpenGL 版が必要な場合は、ソフトウェアアーカイブからダウンロードできる ArrayCalc V11.8.1をご利用ください。

プロジェクトファイルの互換性:

プロジェクトが ArrayCalc で開くかどうかを確認するには、このドキュメントの最後にあるプロジェクト ファイルの互換性表を参照してください。

V12.10.0

機能拡張:

- DSIのサポートを追加。
- すべての d&b Milan デバイスで、Milan エクスポート機能が再び有効になりました。

バグ修正:

- ペアアレイの左右間の Mid CPL の違いを修正しました。
- アナログアンプにおいて、パッチプランにコネクタのバブルが正しく表示されるようになりました。
- ホーンを回転した U-Series ラウドスピーカーのバルーンデータを修正しまし

た。

- XSLi 構成における1台目の TOP キャビネットのスプレイ角が誤って変更されることがなくなりました。
- Patch plan の“Connect to...”機能を使用してアンプを追加すると、アンプが左アレイとシングルアレイに正しく割り当てられるようになりました。
- 3D plot の PNG エクスポートで、Venue がわずかに圧縮されて表示される不具合を修正しました。
- Venue ビューでリギングポイントをリスニングプレーンに結合しても、リギングポイントの位置は移動しなくなりました。

10/2026

V12.8.3

バグ修正:

- 2つの入力間の接続が無効であることが原因で発生するプロジェクト読み込みエラーを修正しました。
- ArrayProcessing: ミラーリングされた Arc セグメントの、ペアアレイの対称性に関する誤った警告を修正しました。
- A-Series: スタックされた水平アレイに対応したすべてのスプレイ角を正しく変更できるようになりました。
- Patch plan:
 - アレイをアンプに接続しても、意図せず重複したアレイがパッチ接続されることはなくなりました。
 - [Add Multiple Sources]機能を使用して追加されたアレイを削除する際に、右側のアレイ項目が正しく削除されるようになりました。
 - アンプの種類を変更した場合でも、Milan Dynamic Mappings セクションの位置が正しく維持されるようになりました。
- DS10デバイスは、複製時にリモート ID を割り当てられなくなりました。
- CCL/XSLi/KSLi のサブミックス構成において、サブウーファースのスプレイ角を誤って変更することはなくなりました。
- リギングポイントのテキストラベルが、高解像度ディスプレイで正しく拡大縮小されるようになりました。
- リギングポイントのプロファイルビューが、位置変更時に正しく更新されるようになりました。
- リギングポイントにスナップされたアレイが、リギングポイントの高さを誤って継承しなくなりました。
- SL-SUB のピックアップ位置が、プロジェクト読み込み時に正しく復元されるようになりました。
- [Configure amps]ダイアログから未使用のアンプを削除すると、ラック内に配置されているアンプも正しく削除されるようになりました。
- キャビネットパッチングテーブルで DS100M の割り当てを変更しても、無効なダイナミックマッピングが発生しなくなりました。

07/2026

V12.8.2

バグ修正:

- 未使用のデバイスを削除しても、ArraySight が削除されることがなくなりました。

05/2026

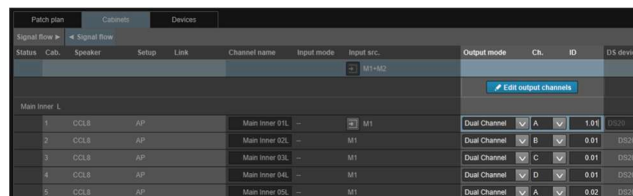
V12.8.1

What's new?

- このバージョンの新機能については [update video](#) をご覧ください

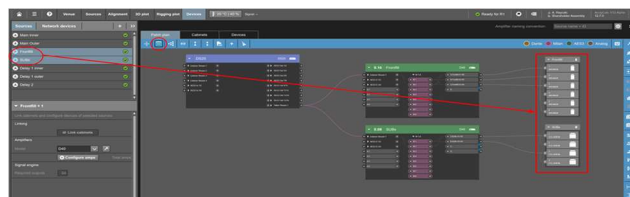
機能拡張:

- 安定性とデバイスのワークフローの改善:
 - Cabinets のパッチングテーブルに、リモート ID の Edit モードと自動インクリメント (CTRL/CMD + Enter を使用) が追加されました。



Signal flow	Channel name	Input mode	Input etc.	Output mode	Ch.	ID	DS device
Main inner L							
1	CCLB	AP	Main inner 01L	Dual Channel	A	1.01	DS01
2	CCLB	AP	Main inner 02L	Dual Channel	B	0.01	DS02
3	CCLB	AP	Main inner 03L	Dual Channel	C	0.01	DS03
4	CCLB	AP	Main inner 04L	Dual Channel	D	0.01	DS04
5	CCLB	AP	Main inner 05L	Dual Channel	A	0.02	DS05

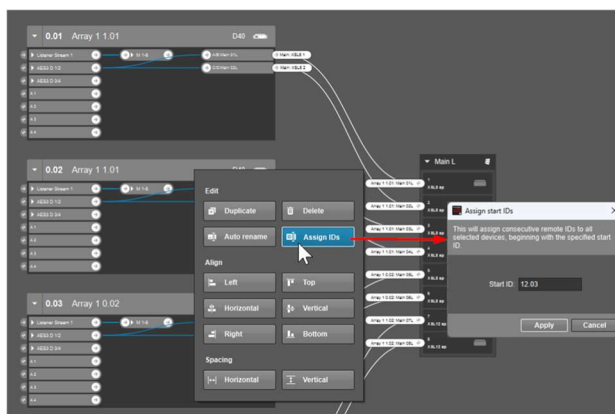
- Patch plan に、選択したソースにパッチされた項目のみを表示する Focus mode が追加されました。



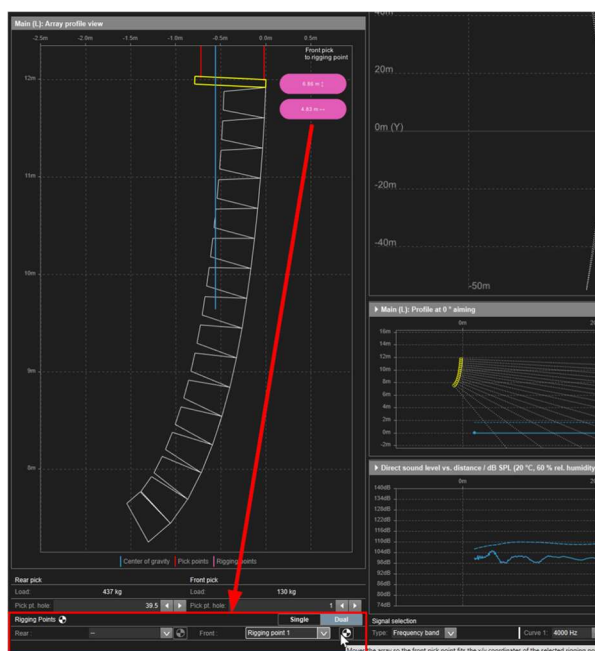
- Devices テーブル、Patch plan、または Unused channels テーブルに、プロジェクト内の未使用デバイスをすべて削除する新たなオプションが追加されました。



- Patch plan: ズームアウト時のアイテムヘッダーの視認性が向上しました。
- Patch plan: アンプの複数選択に対するスマート Assign ID。



- Venue Rigging point エLEMENTと、Rigging point への Snap arrays 機能を追加:



- DS110のサポートを追加。
- D25および25D に、レガシーラウドスピーカー（E0、E3、E9、C4-SUB、C4-TOP、C6、C7-SUB、C7-TOP、Ci45、Ci60、Ci80、Ci90）のサポートを追加。

バグ修正:

- Mac OS でアプリケーションを終了する際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- スタックした CCL-SUB を含むアレイの EASE エクスポート中のクラッシュを修正しました。
- 大規模会場の空の SUB アレイの SPL マッピング図を修正しました。
- Cabinets テーブルで DS10デバイスにパッチを適用しても、他のキャビネットの既存のパッチがクリアされなくなりました。
- ペアの A-Series ホリゾンタルアレイを分割しても、生成されるシングルアレイで予期せぬスプレッド角度や非対称の SPL マッピング図が発生することがなくなりました。

- 大規模会場の SUB アレイ SPL マッピングで色が欠ける不具合を修正しました。
- アンプの設定:
 - [Use remaining channels]が、ペアのアレイで正しく動作するようになりました。
 - D12アンプが2ウェイスピーカー（F-Series、J-Series、Monitors）に正しく割り当てられるようになりました。
- Patch plan:
 - Patch plan で2つのラウドスピーカーを同じアンプチャンネルに接続して重複パッチを作成することはできなくなりました。
 - マトリクスデバイスとアンプのないラウドスピーカー間のドラフトパッチがプロジェクトの不具合を引き起こすことがなくなりました。
 - レイアウトを切り替えた後も、SUB アレイのアイテムが乱れることがなくなりました。
 - 再度マウスを使ってキャビネットを自由にリンクできるようになりました。
 - 複製したアレイに対して[+Amplifier]を使用すると、新たに作成されたアンプに正しくパッチされるようになりました。
 - vertical/horizontal spacing ボタンの誤ったツールチップのテキストを修正しました。
 - パッチラインがアイテムの上に描画されなくなりました。
- 1つの位置に2台以上のキャビネットを持つ SUB アレイスタックは、90°回転できなくなりました。
- 結合されたエレメントを含む dbef 会場ファイルのインポートで、[Add]を選択していた場合でも、現在の会場が置き換えられることがなくなりました。

05/2026

V12.6.6

Important note:

- ArrayCalc バージョン12.6.6は **macOS 11** (Big Sur)およびそれ以前のバージョンをサポートしなくなりました。バージョン12.6.5のままご利用いただくか、macOS をアップグレードして最新バージョンを引き続きご利用ください。

バグ修正:

- 3D plot のメモリスロットを読み込んだ後にプロジェクトを保存しても、「failed to save project: プロジェクトの保存に失敗しました」という不具合は発生しなくなりました。
- Patch plan: ペアアレイ用の欠落していたパッチ行と破損していた[+amplifier]機能を修正しました。
- リスニングプレーンの Transparent をオフにして大規模プロジェクトを扱う際のパフォーマンスが大幅に向上しました。
- エクスポートされた Dante プリセットファイルは、最新の Dante コントロ

ーラーアプリケーション (v4.17.1.1) で動作するようになりました。

- 3D plot のメモリスロットを読み込んだ後、Sources ビューでキャビネット行が無効になる不具合を修正しました。
- Patch plan: シグナルエンジンデバイスを複製する際、インプットチャンネル名とアウトプットチャンネル名が新しく追加されたデバイスにコピーされるようになりました。
- SDE ファイルへのエクスポート: キャビネット図面とミュート状態が正しく保存されるようになりました。
- サブアレイのポジション数を増やしても、ArrayCalc は個々のキャビネットに誤ったスピーカー設定を割り当てなくなりました。
- Alignment ビューの All Sources ダイアグラムは、再度ズームできるようになりました。

既知の問題:

- Milan Manager へのエクスポートは一時的に機能していません。

04/2026

V12.6.5

バグ修正:

- ソースを複製またはベアリングしても、保存時に「failed to save project: プロジェクトの保存に失敗しました」というエラーが発生しなくなりました。
- Patch plan 内で同じアンプチャンネルに2つのラウドスピーカーを接続することはできなくなりました。
- 日本語版 Windows システムにおける ArrayCalc のインストールに関する問題を修正しました。
- アプリ内アップデートが一部のケースで新しいバージョンを検出しない不具合を修正しました。

既知の問題:

- Milan Manager へのエクスポートは一時的に機能していません。

03/2026

V12.6.4

Note:

- ArrayCalc V12.6.3では、GSL8/12、KSL8/12、XSL8/12、CCL8/12のバルーンデータを改善しました。予測結果はこれらのシステムの低周波数指向性をより正確に反映するようになりました。

バグ修正:

- パッチングテーブルでネットワークラウドスピーカーの入力ソースを変更した際に ArrayCalc がクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- 複数の System setting を一度に削除した際に ArrayCalc がクラッシュしてし

もう不具合を修正しました。

- ポイントソースグループのキャビネット数を減らした際のクラッシュを修正しました。
- 複数選択したキャビネットのスピーカータイプを変更した際のクラッシュを修正しました。
- 特定のプロジェクトを読み込む際のクラッシュを修正しました。
- アレイを「Stacked」から「Flown」に変更した際のクラッシュを修正しました。
- 内部の Milan パッチが接続されているプロジェクトを保存する際に失敗してしまう不具合を修正しました。
- 会場エレメントの「P0」の Z 値が入力した後に再び0に戻ることはなくなりました。
- 広指向性の U-Series ラウドスピーカーのバルーンデータの誤りを修正しました。
- ネットワーク U-Series ラウドスピーカーを持つソースを複製した際のクラッシュを修正しました。
- 3D plot で右クリックを使ってドラッグすると再び正しく傾くようになりました。
- Check for updates が、新たなバージョンが利用できない場合でも再びメッセージを表示するようになりました。
- スピーカーのプロパティを変更した際に、ポイントソースグループのプロファイル表示が再び正しく更新されるようになりました。
- 結合された会場エレメントに対するミラー操作の Undo 時に発生していたクラッシュを修正しました。
- 3D plot の印刷またはエクスポート時に発生していたメモリ関連のクラッシュを修正しました。
- J-Series アレイで CUT フィルタが効果を持たなかった不具合を修正しました。
- パッチングテーブルを使用した際に発生していた誤った Milan パッチを修正しました。
- インポートされたネットワークポイントソースを含むプロジェクトが正しく保存できるようになりました。
- SUB アレイシステムの選択での B10、B10N、B12-SUB スピーカーの複製に関する不具合を修正しました。
- ダイアグラムで B12-SUB キャビネットが赤く表示されなくなりました。
- ミックス SUB アレイのスピーカーメニューをスクロールする際のクラッシュを修正しました。

既知の問題:

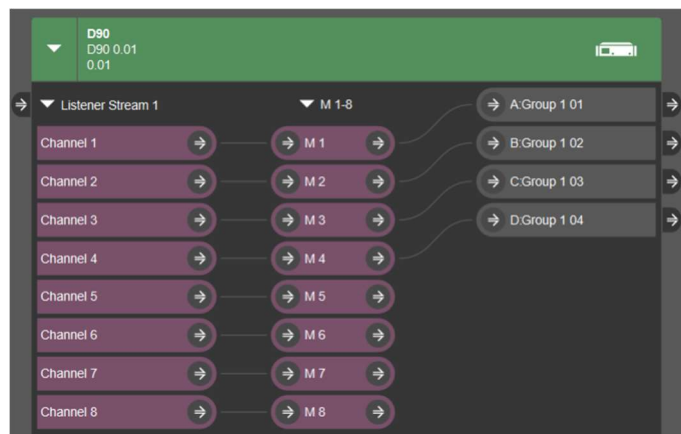
- Milan Manager へのエクスポートは一時的に機能していません。

02/2026

V12.6.3

機能拡張:

- U-Series ラウドスピーカーのサポートを追加。(U3, U5, U7, U3N, U5N, U7N)
- B10-SUB/B10N-SUB ラウドスピーカーのサポートを追加。
- B12-SUB ラウドスピーカーのサポートを追加。
- 42S ラウドスピーカーのサポートを追加。
- DN2 PoE++スイッチのサポートを追加。
- 5DM アンプのサポートを追加。
- Patch plan: 誤ってソースを削除しないように、ソースの削除ができなくなりました。
- Milan ダイナミックマッピング
 - Patch plan の Milan アイテムに対してダイナミックマッピングを定義できるようになりました。



既知の問題:

- Milan Manager へのエクスポートは一時的に機能していません。
- Devices ビューの Cabinets テーブルで Milan DS デバイスにパッチを適用すると、正しくない結果が生じます。この作業には Patch plan をご使用ください。

バグ修正:

- アイテムのパッチ後に Patch plan の表示が予期せずリセットされる不具合を修正しました。
- リンクされたキャビネットで「Configure amps」を使用する際、ArrayCalc が未使用のチャンネルを持つアンプを生成しなくなりました。
- Patch plan の空の入力ソースメニューを修正しました。

01/2026

V12.4.1

機能拡張:

- CCLi ラウドスピーカーおよびリギングハードウェアのサポートを追加。
- DS22オーディオネットワークブリッジのサポートを追加。

バグ修正:

- 非常に多くのスピーカーと会場エレメントを含むプロジェクトで3D plot に切り替えた際のクラッシュを修正しました。
- Devices テーブルが選択されている状態で「Configure amps」を使用した際に ArrayCalc が進行状況バーを無限ループする不具合を修正しました。
- ペアアレイの左側と右側の Patch plan 項目を個別に選択できるようになりました。
- 新たなプロジェクトの読み込み時に欠落していたデフォルトファンクショングループを修正しました。
- Racks はカスタムレイアウトに切り替えても内容を失わなくなりました。
- リモート ID 0.01を確保していた Patch plan racks の不具合を修正しました。これによりリモート ID が重複する可能性があります。
- Patch plan: 重複したデバイスには、新しい未使用のリモート ID が割り当てられるようになり、リモート ID 重複エラーを回避するようになりました。
- Patch plan: 等間隔配置機能使用時にもカスタムレイアウトの変更が復元されるようになりました。
- CAD プログラムにインポートした際の DXF エクスポートが正しくスケーリングされるようになりました。

11/2025

V12.2.4

バグ修正:

- プロジェクト読み込み後の SUB アレイの位置の誤りを修正しました。

09/2025

V12.2.3

機能拡張:

- Milan Manager ファイルへの Milan パッチのエクスポートを改善しました。

バグ修正:

- オーディオネットワークデバイスを削除する際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- 3D plot で計算結果をメモリスロットに保存する際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- デバイスデータの不具合による特定プロジェクトの読み込みエラーを修正し

ました。

- Devices ビューの開始 ID、入力モード、入力ソース設定用の入力フィールドが正常に再表示されるようになりました。
- 未使用アンプの削除が[Configure amps]ダイアログ上で再び正しく機能するようになりました。
- アドバンスド CPL の値の処理を修正しました。
- アンプがパッチされているかどうかに関係なく、ソースのミュート状態が再び機能するようになりました。
- 反転していたポーラー図を修正しました。
- 入力がリンクされたアンプを含むプロジェクトの読み込みに関する不具合を解決しました。
- プロジェクトを読み込んだ後のラックの不具合を修正しました。
- Patch plan の自動レイアウトにおけるパフォーマンスの問題を解決しました。
- ペアアレイの GR インジケータ LED に関する不具合を修正しました。
- パーツリストに CCL-SUB が二重に表示される不具合を修正しました。
- [Audio networking]機能が有効でない場合、DS10を追加できなくなりました。

09/2025

V12.2.2

バグ修正:

- Patch plan でパッチしたアンプを削除する際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- SUB アレイの No. of positions の数を減らす際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- ArrayCalc ヘルプを開く際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- アレイを分割する際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- パッチングテーブルで Mix TOP/SUB アウトプットモードが再度設定できるようになりました。
- Mac OS での SPL 計算で CPL の変更が考慮されない不具合を修正しました。
- アレイの Patch plan インพุットリンクを使用する際に発生する空の Dante パッチが修正されました。
- リダンダンシーDS100/DS100M デバイスは、親デバイスと同じ I/O サイズを使用するようになりました。
- ドライバーが長期的な生産平均に適応するために CCL データが更新されました。

07/2025

V12.2.1

バグ修正:

- ArrayProcessing ダイアログを開く際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。

06/2025

V12.2.0

機能拡張:

- D25/25D アンプのサポートが追加されました。
- Milan Manager ファイルへの Milan パッチのエクスポート。
- Patch plan の Custom ビューでは、レイアウトを切り替える際に最後のオブジェクトの位置が記憶されるようになりました。

バグ修正:

- HeadroomCalc の wav および mp3 ファイルの読み込みが再び機能するようになりました。
- DS100インプットの65から128は、プロジェクトの読み込み時にリセットされなくなりました。

06/2025

V12.0.5

バグ修正:

- ArrayCalc が Mac OS 11および12で実行されない不具合を修正しました。
- Vulkan グラフィックデバイス検出の堅牢性が向上しました。
- DS100M が Patch plan で128の Milan インプットを表示しなくなりました。
- パーツリストに、同じ名前のソースのコンテンツが正しく表示されるようになりました。

04/2025

V12.0.4

バグ修正:

- 特定の Windows 環境でインストール後に ArrayCalc が起動しない不具合を修正しました。
- パッシブスピーカーシステムからアクティブスピーカーシステムに切り替える際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- フライング SL-SUB の数を増やすとクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- HeadroomCalc オーディオサンプルデータを含むプロジェクトをロードする際に、ArrayCalc が91%でフリーズすることがなくなりました。
- HeadroomCalc ビューでソースのアクティブな GR LED が表示されない不具合を修正しました。

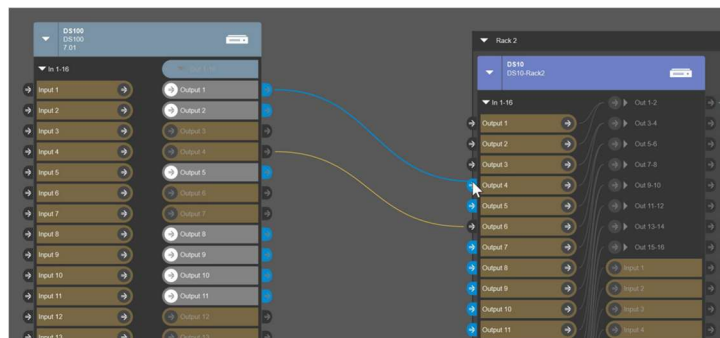
- Newwork devices テーブルから DS10を削除しても、Mac OS 上で ArrayCalc がクラッシュすることがなくなりました。
- 3D plot の[raw data and statistics]をエクスポートする際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- Mac OS でオーディオネットワーク機能を無効にした際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- ArrayCalc は、アンプ設定の印刷プレビューを表示してもクラッシュすることがなくなりました。
- Mac OS で ArrayCalc を閉じる際にクラッシュしてしまう不具合を修正しました。
- Devices ビューの[Configure amps]ダイアログを改善しました。
- IT 管理された Windows PC での ArrayCalc のサイレント/クワイエットモードインストールを修正しました。
- Vulkan グラフィックエンジンが正常に動作していないときに警告メッセージが表示されるようになりました。このメッセージが表示された場合は、support@dbaudio.com までご連絡ください。

04/2025

V12.0.3

機能拡張:

- Devices ビューのグラフィカルなインタラクティブ Patch plan:



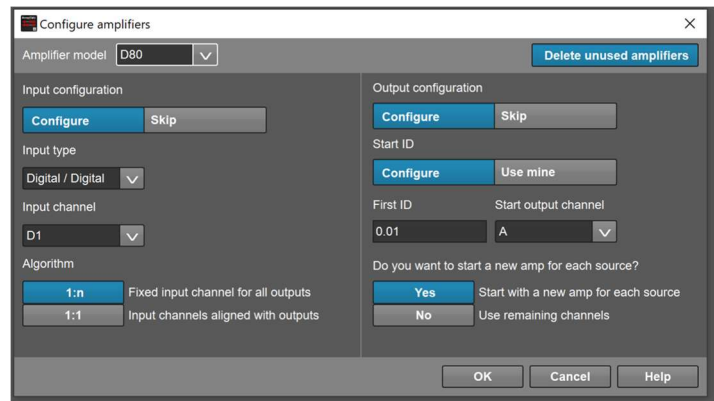
- デバイスとソースのインタラクティブで視覚的なパッチング。
- ソースからシンクまでのパッチされたシグナルパスの強調表示。
- 複数選択と自動アルゴリズムにより、プロジェクトをすばやくパッチします。
- パッチングエラーとまだ使用されていないアンプチャンネルの視覚化。
- Patch plan の概要またはすべてのデバイスの詳細 PDF エクスポート。
- Patch plan デザインが含まれるようにサンプルプロジェクトが更新されました。
- シグナルエンジン入力サポートが追加されました。
- アンプが有効になっていない場合の Soundscape ワークフロー:
 - キャビネットへのダイレクトドラフトパッチを備えたプロジェクトは「Ready for R1」状態であり、R1でダミーアンプがなくても

DS100/DS100M を操作するために使用できます。

■ 新たなアンプワークフロー:

- ラックとアンプをキャビネットに接続する前に追加するためのワークフローを有効にするために、ArrayCalc は新たなキャビネットが追加された際にアンプを自動的に生成しなくなりました。代わりに、[Patch plan] または新たな[Configure amplifiers] ダイアログでアンプを追加できます。

■ いくつかのオプションを提供する Configure amplifiers ダイアログ:



■ CL-Series のサポートが追加されました。

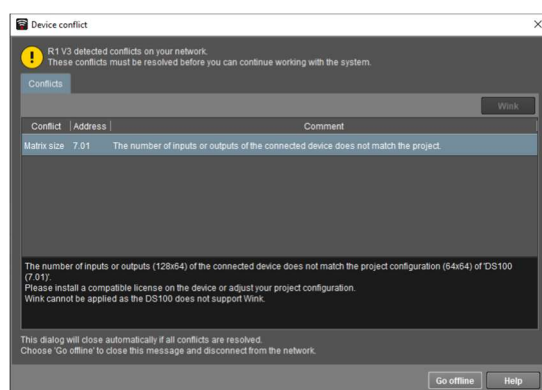
■ D90/D40/40D アンプの Milan のサポートが追加されました。

■ DS100(M)入力および出力数バリエーションのサポートが追加されました。

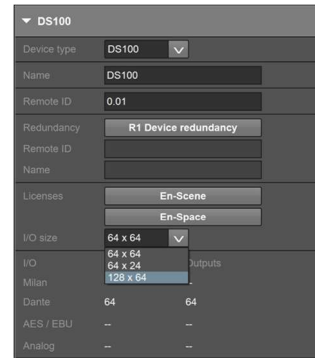
- DS100(M)ファームウェアバージョン3.0.0以降では、追加費用なしで既存デバイスの入力数が128入力に拡張されます。

- **Note:**

この機能には、DS100(M)ファームウェアバージョン3.0.0以上が必要です。ファームウェア3.0.0以上のDS100(M)はR1の古いバージョンでも表示されますが、デバイスの初期化は予告なく失敗します。初期化に失敗すると、音声の問題が発生します。



- DS100(M)をファームウェアバージョン3.0.0以上にアップデートした後、DS100(M)を既存のプロジェクトで使用すると、入力数に関する競合が発生します。



- このエラーを解決するには、R1をオフラインにし、ArrayCalc V12.0.0以降でプロジェクトを開き、[Devices] タブに移動して DS100を選択し、I/O size を[128x64]に設定します。
- 新たな I/O size を選択したら、プロジェクトを保存し、R1 V3.40.0以降で再度開きます。
- 1つのプロジェクトで最大32のファンクショングループのサポートが追加されました。
 - ここでは、上記の注記の説明と同じ制約が適用されます。
- 40D アンブに J-Series TOP(J8/J12)のサポートが追加されました。
- 3D ダイアグラムでのユーザーエクスペリエンスが向上しました。
 - ズーム機能と回転機能により、より正確なナビゲーションが可能になりました。
 - メジャーメントグリッドがズームレベルに応じて拡大縮小されるようになりました。
 - パンとズームのためのトラックパッドジェスチャー。
- ブロードバンドなゲインリダクションスレッシュホールドを推定するための計算方法が改善されました。
 - 選択したシステムやその構成、および選択したブロードバンド信号によって、以前の ArrayCalc バージョンと比較して、GR LED がわずかに異なる入力レベルで点灯する可能性があることに注意してください。
- システムデザインエクスポート(SDE)のサポート
 - 設計されたサウンドシステムは、現在のすべての設定を含めて、SDE 標準に従って SDE ファイルにエクスポートでき、その後、SoundPLAN などのノイズ予測ソフトウェアで使用できます。SDE 標準は、統一された無料で使用できるファイル形式と計算方法を提供し、サウンドシステムを備えた屋外エンターテインメントイベントの騒音を正確かつ簡単に予測できるようにします。

バグ修正:

- XSL Pullnack frame が DXF エクスポートで欠落なくなりました。
- Rigging plot ビューで、[Frame height front]をゼロ未満に設定できるようになりました。
- IEC60268-16スペクトルが GR LED をトリガーしない不具合を修正しました。

- SL-SUB シングルピックアップポジションの誤った計算を修正しました。

03/2025

プロジェクトファイルの互換性

プロジェクトファイルの互換性を維持するために必要なサポートされるソフトウェアのバージョンは次の通りです。

作成	開く			
ArrayCalc	ArrayCalc	ArrayCalc Viewer	R1	NoizCalc
12.10.x	12.10.x	1.22.x 1.20.x	3.48.x	4.4 4.2
12.8.x	12.8.x		3.46.x	
12.6.x	12.6.x		3.44.x	
12.4.x	12.4.x		3.42.x	
12.2.x	12.2.x		3.40.x	
12.0.x	12.0.x			
11.8.x	11.8.x		3.38.x	4.0
11.6.x	11.6.x		3.36.x	
11.4.x	11.4.x		3.34.x	
11.2.x	11.2.x		3.32.x	
11.0.x	11.0.x		3.30.x	3.2
10.26.x	10.26.x	1.18.x	3.26.x	3.0 2.8
10.24.x	10.24.x		3.22.x	
10.22.x	10.22.x			

Note:

通常、プロジェクトファイルには上位互換性があります。つまり、同じアプリケーションの以前のバージョンで作成されたプロジェクトファイルは、後のバージョンで開くことができます。